

活動レポート | 取手アートプロジェクトの現在地

REPORT OF TORIDE ART PROJECT



郊外都市・取手にしかない

新しい「アートプロジェクト」をつくること。

1999年のスタートから12年目の2010年

取手アートプロジェクト(TAP)は

新たな“創造”を目指して舵を切りました。

取手という土地に立って

地域で営まれるさまざまな“日常”への

応答と試みを重ねながら

アーティスト、取手に暮らす人びとともに

新たな“芸術文化”をつくり育てていくことを目指して

TAPは活動を続けています。

TORIDE ART PROJECT

活動レポート

取手アートプロジェクトの現在地

REPORT OF TORIDE ART PROJECT

目次

1 アートのある団地
ART IN DANCHI

7 半農半芸
AGRI-ART

12 こどもプログラム
KIDS' PROGRAM

14 中間支援プログラム
ART SUPPORT PROGRAM

15 国際交流プログラム
INTERNATIONAL EXCHANGE PROGRAM

16 最近のTAPが分かるデータ集
SEE RECENT TAP



TORIDE ART PROJECT

アートのある団地

ART IN DANCHI

2008年の公募展、2009年の団地への事務所移転を経て、2010年の「100本ノック！」で拠点をほぼ通年で開いたことを契機にスタートしたコアプログラム《アートのある団地》。これまで遊休地や野外の公共空間、人が常にはいない場所を活動拠点にしてきたTAPですが、団地はまさにさまざまな人の生活がすぐ近くにある活動の場。アーティストの試みや表現が日常に入り込んでいくことの面白さやジレンマとともに、ここにしかない風景を生み出しつつあります。《アートのある団地》で取り組む活動の中心にあるのは、携わる人びとの関係性が作品をつくっていくリレーションナル・アート。活動に居合わせる人びとの発想や個性、意思がプロジェクトの形を変えていきます。





いこいーの + Tappino

赤ちゃんからご高齢の方までが共有できる空間を目指して、市民ボランティアや取手井野団地自治会のみなさんとの連携のもと運営している「いこいーの + Tappino」。取手市高齢福祉課施策「お休み処」としての機能を果たすコミュニティカフェであり、取手井野団地で行われるパートナーアーティストプログラムの活動拠点でもあります。

設立:2011年10月 オープン:平日10:00~16:00、土日祝はアーティスト活動・イベント開催時オープン
ボランティア登録者数:49名(2014年3月現在)
延べ利用者数:14,118名(2014年3月末時点)



パートナーアーティストプログラム とくいの銀行

いこいーの + Tappinoにある、ひとの得意なことを預かり、引き出すことのできる「銀行」。誰もが納得する“特技”から、くすっと笑える小さな“提案”まで、2014年3月現在総計270件のとくいを預かっています。1対1での引き出しをはじめ、みんなで楽しめる「ひきだしイベント」、多くのとくいを一度に体験できる「ひきだしうそう会」など頭取と銀行員により通年で営業されています。山口や札幌など、他地域のアートプロジェクトでの支店展開にも発展しています。

パートナーアーティスト:深澤孝史
プロジェクト期間:2011年~継続中

ことばを受け取り、紡いでつづく小さな活動

パートナーアーティストプログラム 「ちくちく地区」 「リカちゃんハウスちゃん」 in 井野団地

団地やその周辺で出会う人びとの対話をもとに、文字と刺繡、イラストレーションを表現の方法として活動を続けている宮田篤+笹萌恵。「場所の名前」や「言葉」をかたどった色とりどりの小さな旗「ちくちく地区」、住民との往復書簡として続く漫画の連載「リカちゃんハウスちゃん」は、ごく日常のなかにひょこっと現れます。「リカちゃんハウスちゃん」は団地の掲示板での連載から隣接する井野小学校図書室での連載へつながり、彼らは毎月2日間程度小学校に通っています。

パートナーアーティスト:宮田篤+笹萌恵
プロジェクト期間:2010年~継続中



パートナーアーティストプログラム カラダが楽になる 呼吸法と发声法シリーズ

「声」をさまざまな切り口から扱うゲストを団地に招いて、「声」の多様性をライブとワークショップを通じて体感する連続企画。アーティスト自身の呼吸法と发声法のワークショップに加えて、ゲストによる歌や朗読、絵本の読み聞かせからヒューマンビートボックスなど、各分野のプロフェッショナルを迎えてのプログラムはそれぞれの回ごと年代も興味も違う人びとが参加し実施されました。

パートナーアーティスト:徳久ウィリアム
プロジェクト期間:2010年~2014年
ゲスト:尾引浩志、現代朗読協会、ゆめ団地合唱団、たむらひろし、女池和宏、おおたか静流、えほんず、デジタルポケット、渡辺克己、桜井響、Taikan Works(招聘順)



多種多様な「声」を団地に集める

ダンチ・ イノベーターズ! プロジェクト

ダンチ・イノベーターズ!は2012年4月21日に実施した
公募「本気でダンチを変える社会実験のチームメンバー募集!」
で選出されたクリエイティブチーム。
それぞれの専門領域を生かして、チームでのディスカッションを重ね
取手市内2団地でのプログラムを企画・実践。
チームメンバーのプロジェクト実現のアシストや、
「TORIDE団地タイムズ」の発行などの活動情報発信を担っています。

チームメンバー:馬場正尊、上原耕生、北澤潤、新堀学、添田フジオ、樋口道彦、飯島悠介、濱祐斗



一夜限りの手づくりのホテル

ダンチ・イノベーターズ!プロジェクト サンセルフホテル

太陽の光を宿泊客とホテルマンとが一緒に集めて発電し、その電気を使って過ごす一夜を提供する世界初(?)の団地ホテル、「サンセルフホテル」。ホテルマンは団地や近隣の住民が務め、ゲストを迎える部屋の設えやアメニティ、食事のメニューからルームサービスまで、ホテルに必要なものの全てを話し合いながら手づくりしています。チェックイン後、ゲストとホテルマンが団地を回って貯めた電気は、部屋と団地の夜空に浮かぶ「もう一つの太陽」に使われます。2013年4月に1組目のお客様を迎えて以降、2013年9月、2014年3月の3回、計4組11名のゲストが井野団地に滞在。それぞれのお客様とともに一夜限りのホテルをつくるため、2歳から70代までのホテルマンが活動しています。

アーティスト:北澤潤
プロジェクト期間:2012年~継続中

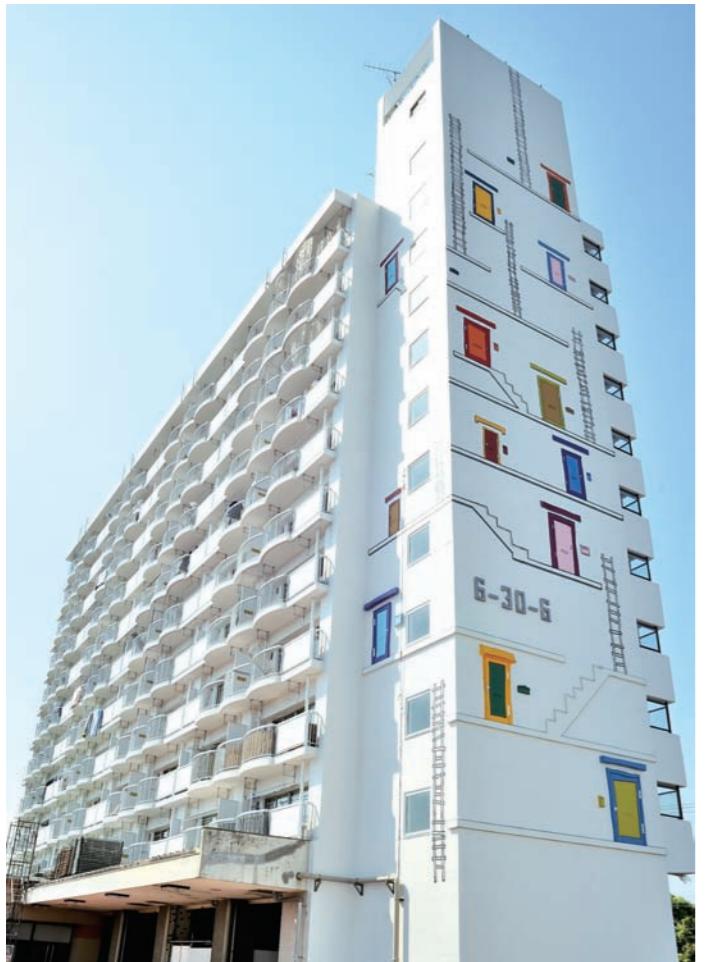


ダンチ・イノベーターズ!プロジェクト
IN MY GARDEN

戸頭団地にまつわるエピソード集めと作家の活動を紹介するオープンスタジオから始まったプロジェクト「IN MY GARDEN(インマイガーデン)」。団地の中に突如現れたドアの形のポストに寄せられた約90通の個人的なストーリーから着想を得て、アーティストの頭の中で変換されたプランが戸頭団地の住棟の壁に登場していきます。団地の日常空間の中に立ち現れる風景が、団地に暮らす／団地で時間を過ごすそれぞれの人にとっての「自分の庭」にならないか。そんな仮定を仕掛ける大規模作品が取手に生まれます。

アーティスト:上原耕生
プロジェクト期間:2013年～継続中

壁の向こうに広がる異世界

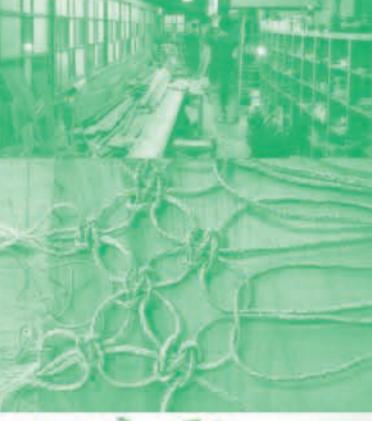


TORIDE ART PROJECT

半農半芸
AGRI-ART

東日本大震災のあと、自分たちが足をつけて立ち、日々を暮らす土地が一体どういう状況にあるのかをまず確かめるところから再スタートした《半農半芸》。生きることの根幹に密接な関係を持つ「衣・食・住」の要素を表現の軸に据えて活動するアーティストたちとともに、身体を通じて自然との接点を探り、自らの手で日常の“いとなみ”を掘り下げ手づくりする、そんな試みが並走しています。2013年度からは取手市高須地区に活動の拠点を定め、アーティストやデザイナー、建築家、研究者などのクリエイターが、大地や風土と向き合いながら地域の方々と協働し、これからのが「生きること」、「住まうこと」を考える場をつくっています。

プロジェクトディレクター:岩間賢(美術家)





△ 天然染料からの色素抽出と色材実験・絵具への展開、 自然素材を用いた染色体験

東京芸術大学美術学部油画技法材料研究室と共同で天然色素を用いた絵具の研究・開発に取り組む。また、地域の方々を対象に天然染料による染色ワークショップをおこなっています。

プロジェクトアーティスト：岡博美（藍染師・染工房「呼吸」主宰）
研究協力者：秋本貴透、端山聰子、降旗千賀子



循環する住 ストローべイルハウスづくり ▶

岐阜県白川町で藁ブロックを用いた地域で循環する家づくりを実践。半農半芸メンバーは“縁農”活動として、現地での実践を通じ土の家をつくるためのノウハウを学びました。

プロジェクトアーティスト：塩月洋生（建築家）



▼ 地域資源のリサーチとリデザイン、 フードプレゼンテーション

高須でのフィールドリサーチとともに、菜種油ラベルのリデザイン、米粉クッキーの試作など、誰もが共有できる体験である“食”を鍵とした表現を探っています。

プロジェクトアーティスト：風景と食設計室ホー（高岡友美+永森志希乃）
プロジェクトパートナー：NPO法人バイオライフ、社会福祉法人身障者ボニーの会



モザイク薰製機をつくる ▶

モザイク制作と薰製づくりをつなげたワークショップを高須に近接する桜が丘小学校の児童有志とともに、巨大薰製機を制作中。また地元企業との連携により薰製製品の開発を進めています。

プロジェクトアーティスト：鈴村敦夫（壁画家）
プロジェクトパートナー：日本畜産振興株式会社

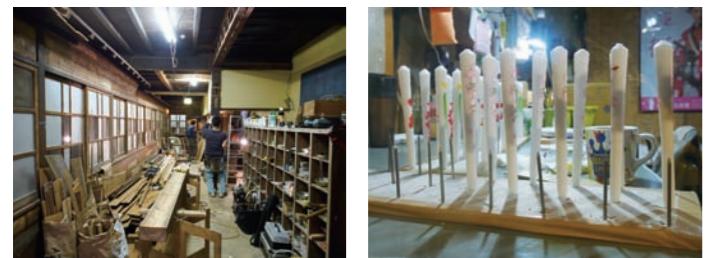


高須探検隊+高須お宝マップ制作、つばやきいも ▶

高須に暮らす方とともに地域の魅力を見つけるフィールドリサーチをおこない、参加者の発見を大きな地図にまとめました。また対話や交流を育むものとしての“やきいも学”を実演し、提案しています。

プロジェクトアーティスト：チョウハシトオル（やきいも日和主宰、デザイナー）





リサーチ・プログラム

地域間連携を視野に入れ、企業やNPO、生産者等が実施する農の文化を取り入れた地域プロジェクトのリサーチを実施。各地で遊休施設、地域資源を活かした活動を担う人材へのヒアリングを行いました。

実施期間:2012年10月～2013年8月

共同研究者:岩間賢、熊倉純子、佐藤時啓、森司

リサーチエリア:大分県、福岡県、広島県、鳥取県、兵庫県、京都府、奈良県、三重県、岐阜県、新潟県、静岡県、神奈川県、東京都、千葉県、茨城県、福島県

地域・農・文化を担う人材と出会う



研究会・地域交流

多方面から対峙する文化としての農

麻を績む体験に養蜂見学、農業経済学、先端生命科学までに触れる研究会。田畠での農体験、楮栽培など耕作放棄地活動への参加、地域の方との竹伐りやお祭り、フィールドワーク。地域での文化としての“農”的営みにさまざまな視点から向き合おうとしています。

実施期間:2011年7月～継続中
協力者(2013年度):高須地域のみなさま、ARTONE、小川一成、尾田正二、乙犬惇生、神門善久、古在豊樹、佐々木正己、さばかん、シュハリ農園、高安淳一、中嶋栄子、松原東洋



高須デザイン:tndesign(臼井拓朗+菊池絵子)



TAKASU HOUSE お披露目会＋フォーラム

地域文化としての『半農半芸』——人・地域・労働の未来

半農半芸プロジェクトの活動拠点となる「TAKASU HOUSE」のお披露目、2013年度の成果発表を兼ねて開催されたフォーラム。基調講演では、「アーティストとは職業なのか?」という問い合わせを発して、アートの社会的役割、来る時代の「創造的縮小」への言及がありました。またプロジェクトアーティストが一堂に会してのラウンドテーブルでは、農・芸・デザインの中間地点にある営みの先進性や、「時間の経過」の再価値化など現在の《半農半芸》プロジェクトが持つ、次世代につなぐ可能性について議論が交わされました。

今回の会場となったTAKASU HOUSEは、セルフリノベーションで生まれ変わった半農半芸の新たな活動拠点。高須地域でのさまざまな試みを進めていく場として、始動しています。

開催日:2014年2月1日(土)
会場:TAKASU HOUSE、高須公民館
講師:芹沢高志(P3 art and environment統括ディレクター)
プレゼンター:岩間賢、岡博美、塩月洋生、鈴村敦夫、
チョウハシトオル、風景と食設計室ホー



KIDS' PROGRAM

こども プログラム



こどもプログラムの中心事業として2012年度で14回目を迎えた児童作品展。

商店の窓での展示をはじめに、取手市内全校の小学一年生が

一つのテーマのもと優劣なく一堂に作品を発表する「いちねんせいのさくひんてん」として続けてきました。

その過程の中で学校現場でのヒアリングから2005年にアーティスト派遣がスタートし、

出展作品の制作サポート授業のほかオリジナルワークショップがスタート。

近年は美術教育を考えるフォーラムや、未就学児とその家族を対象とした「たぶたぶクラブ」も実施しました。

活動15年目の2013年度は、これまで続けてきたプログラムの検証として、

お隣守谷市のアーカスプロジェクトとの連携による研究授業や

これまでの運営スタッフによる振り返り会議を行いました。今後は検証を継続しながら、

これまでのこどもプログラムが育ててきた資源を活用できる仕組みをつくっていきます。



参加アーティスト(2012年度)

[アーティスト派遣] イノウエみゆき、大西利佳、桐生眞輔、栗山斉、小中大地、副島章弘、田中一平、中島佑太+山下祐加、宮田篤+笹萌恵
[フォーラム] 原島博、しおがり寿 「たぶたぶクラブ」 新井英夫、知念ありさ、屋宜久美子

参加アーティスト(2013年度)

[検証授業] 大畑久子、桐生眞輔、小中大地、副島章弘、間根山英明



SAKUHINTEN



TAPUTAPU CLUB



こどもプログラム | KIDS' PROGRAM

中間支援 プログラム

ART SUPPORT PROGRAM

取手市内に広がるアート活動や、アーティストの表現活動を資金面・広報面で支援する中間支援事業、「取手の芸術活動連携サポート事業(取手市受託事業)」。2010年にスタートし、市内のアートを支援しながら、アーティストと市民をつなぐことを目的として実施しています。アーティストが多く活動の拠点を持ち、個性ある取組みが多くある取手という地域においてTAPがどのような機能を果たすべきかを探り、検証する事業もあります。



とりでグラント!

取手市のアート活動を支援する

市内のアート団体、アーティストグループの活動を支援する「とりでグラント!」では、2012年度9組(公募制)、2013年度3組(指名制)の活動を支援しました。支援活動は展覧会からワークショップ、ラジオプログラムや製品開発まで。特異な視点を生かした取り組みが実施されました。

支援団体:[2012年] art space/bar conflictable cube、actica、井野アーティストヴィレッジ、SANTの会(東京芸術大学佐藤時啓研究室)、第0研究室、取手茧輪実行委員会、拝借景、非営利組織moai、百暖簾実行委員会 [2013年] actica、SOBASUTA、有限責任事業組合TRAP



とりでアートの日。

夏休み期間に取手市ゆかりのアーティストによるワークショッププログラムを体験できる「とりでアートの日。」。それぞれのジャンルにおけるプロフェッショナルが提供する、アーティストに出会って制作体験を楽しめる事業として毎年好評を博しています。



国際交流 プログラム

INTERNATIONAL EXCHANGE PROGRAM

アジア圏のアートプロジェクト、アーティストとの交流を図る国際交流プログラム。2012年度は韓国・安養市のSEOKSU ART PROJECT(SAP)の10周年記念として安養市・光州市の2市で開催された国際パフォーマンスフェスティバル※に、TAP2006・2008・2010参加アーティストの現代音頭作家・山中カメラを派遣しました。また、近年では欧州文化首都の開催地コシツェで活動するアートコーディネーターやマレーシア・ペナンに拠点を置くコミュニティアートセンターディレクターの視察など、各国のコミュニティに立脚するアートプログラムの従事者がTAPを訪れディスカッションの場を持つなど、ネットワークが広がっています。

※SAP2012 International Performance Art Festival



事業実施件数
169件/年 [延べ参加者数12,562名]
アートのある団地 106件 [9,582名]
半農半芸 44件 [878名]
こどもプログラム 7件 [1,708名]
中間支援プログラム 12件 [394名]

掲載・取材件数
37件/年

新聞:毎日新聞(全国版、県内版)、東京新聞(首都圏版、県内版)、朝日新聞、茨城新聞、常陽新聞、日本経済新聞、読売新聞(以上各県内版)

テレビ:NHKニュース(首都圏版、県内版)、BS朝日、BS-TBS

ラジオ:茨城放送

WEBメディア:Greenz.jp、コロカル、cinra.net、東京R不動産、団地R不動産、SUUMOジャーナル

書籍:茨城県造形教育研究会編「茨城の美術」(中学美術資料集)、団地に住もう!東京R不動産

行政誌等:全国市長会機関紙 市政、取手市政策情報紙 薬、広報とりで

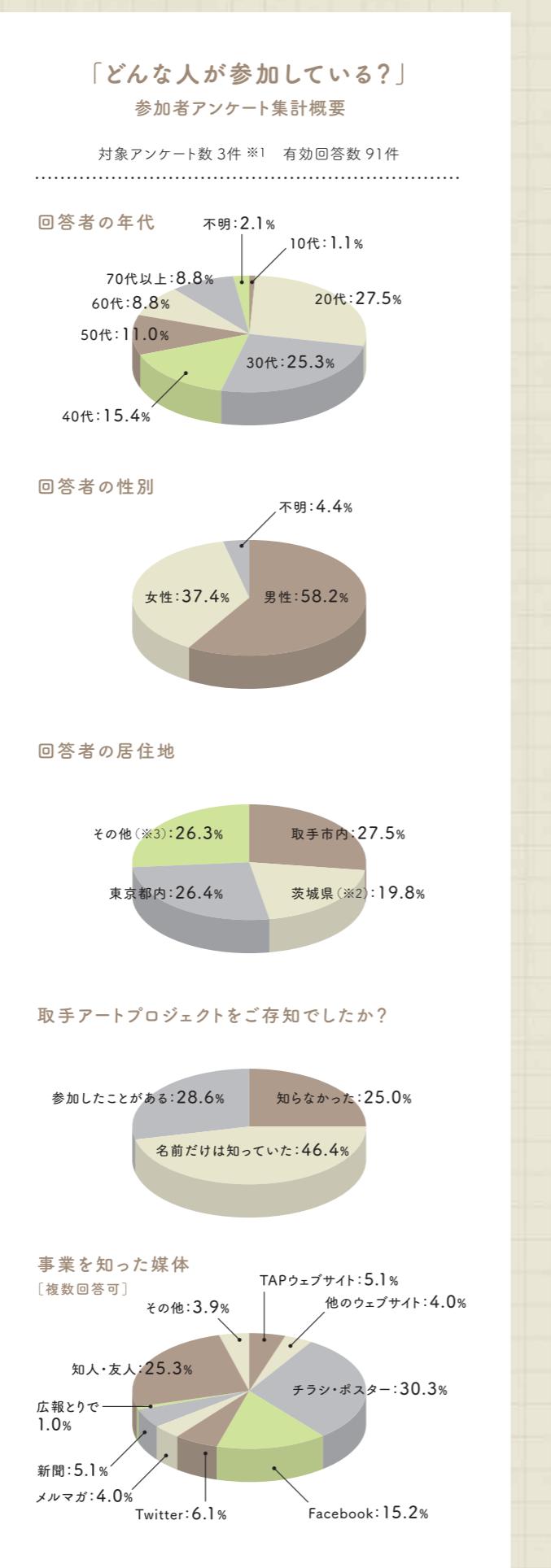
コミュニティ誌等:関鉄Pocket、シンヴィング、トヨタカラーラ新茨城広報誌Pit in、UR-Press

視察件数
17件/年

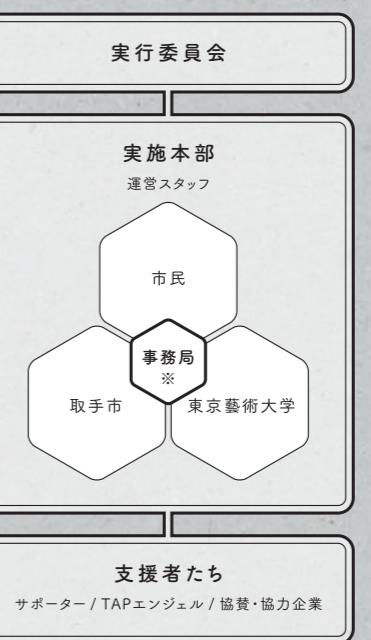
視察者所属:大学(国立、市立、私立)、行政(県、市)、民間企業、NPO法人、社団法人、市民活動団体、キュレーター、学生等

視察者活動地:北海道、青森県、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、茨城県(つくば市、取手市)、イギリス、スロバキア、マレーシア、韓国

※1 アンケート実施イベント:アートなダンチでくわーく!取手井野団地+戸頭団地(2013年12月23日)、TAKASU HOUSEお披露目会+フォーラム「地域文化としての(半農半芸)一人・地域・労働の未来」(2014年2月1日)、シンポジウム「サンセルフホテルとは何なのか?アート、建築、演劇、環境、コミュニティデザインから読み解く」(2014年2月28日・都内開催)
※2 守谷市、龍ヶ崎市、牛久市、常陸太田市、石岡市、利根町、土浦市
※3 千葉県、神奈川県、埼玉県、群馬県、静岡県、長野県



TAP運営組織図



※NPO法人 取手アートプロジェクトオフィス

主催

取手アートプロジェクト実行委員会(取手市、東京藝術大学、アート取手、取手市教育委員会、取手市商工会、財団法人取手市文化事業団、社団法人 常緑青年会議所、取手美術作家展、特定非営利活動法人取手アートプロジェクトオフィス)
茨城県南芸術の門創造会議(茨城県、取手市、守谷市、取手アートプロジェクト実行委員会、アーカスプロジェクト実行委員会)
特定非営利活動法人取手アートプロジェクトオフィス

協力

株式会社OpenA、関東鉄道株式会社、独立行政法人都市再生機構千葉地域支社、関東鉄道株式会社、取手井野団地自治会、井野アーティストヴィレッジ

協賛

東日本ガス株式会社、株式会社安井建築設計事務所、株式会社新六本店、取手ロータリークラブ、財団法人茨城住宅管理協会

助成

- 公益法人福武財団(TAP全体事業)
- 財団法人自治総合センター 平成25年度地域の芸術環境づくり助成事業(アートのある団地)
- 平成25年度 文化庁 地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ事業(アートのある団地・半農半芸)
- 愛・地球博成果継承発展助成事業(半農半芸)
- サンタリー文化財団 地域社会と文化に関するグループ研究助成(半農半芸)
- 平成25年度 取手市「取手の芸術活動連携サポート事業」事業受託(中間支援プログラム)

TAPエンジェル

伊藤祐子、岩本室佳、海老原三美子、遠藤一佳、大澤美智子、尾田正二、五十鈴彩子、五十鈴ひろ美、小林えつ、佐藤勝紀、柴田元子、清水展生、清水雅之、中島諒人、中村初江、貴名功二、蓮見孝、平野麻子、藤井信介、藤井秀樹、藤沢政宏

活動レポート | 取手アートプロジェクトの現在地

REPORT OF TORIDE ART PROJECT

制作・編集	取手アートプロジェクト実施本部
写真	伊藤友二、伯耆田卓介、岩間賢
	深澤孝史、actica、傍嶋賢、田中一平
	非営利組織moai、山中カメラ
デザイン	取手アートプロジェクト
裏表紙イラスト	森垣賢
発行	市原茉子
	2014年7月

禁無断転載 ©取手アートプロジェクト2014

How to Join TAP?

取手アートプロジェクトへのかかわりかた

運営スタッフとして!

TAPの企画にはどなたでもスタッフとして関わることができます。アートに興味のある学生や若者、こどもを持つお父さんお母さん、まちづくりに貢献したいシニア世代など、さまざまな年代や立場の人が集まっています。取手で面白いことをしてみたい方、まちづくりやアートプロジェクトに興味のある方、いつでもお待ちしています。



参加者として!

TAPでは年間を通じてさまざまな企画を実施しています。WEBやチラシ、ポスターなどで活動情報をチェックいただき、通年での各プロジェクトやワークショップ、シンポジウムなど、興味のある活動にぜひご参加ください！



サポーターとして!

TAPサポーターは、気軽にTAPの活動に参加していただけるボランティアスタッフです。TAPからメールなどで不定期に活動サポートの募集をいたします。お時間のあるとき、興味のある活動やサポートのお仕事の情報が届いたら、ぜひご参加ください！



TAPエンジェルとして!

TAPの活動に資金面での援助をしてくれる個人・企業の方をTAPエンジェルとして登録させていただきます。TAPエンジェルのみなさまには、活動のお知らせをお送りするほか、取手にゆかりのあるアーティストによるオリジナルポストカード型エンジェル証を発行いたします。



ご支援金額:個人・団体とも一口 3,000円から

※企業の方による5万円以上のご支援につきましては、協賛企業としてTAPのポスターやチラシ等に企業名を掲載いたします。

いずれもお問い合わせは、
「取手アートプロジェクト実施本部」まで！

取手アートプロジェクト実施本部

〒302-0024 茨城県取手市新町2-5-5 ARTOSかも2F
TEL・FAX:0297-72-0177
Email:tap-info@toride-ap.gr.jp WEB:www.toride-ap.gr.jp
Facebook:www.facebook.com/toride.ap
Twitter:@toride_ap

NPO会員として!

TAP実施本部の事務局である特定非営利活動法人取手アートプロジェクトオフィスには、TAPの活動理念に賛同をいただける方ならどなたでも会員として入会いただけます。NPO会員には、年1回の総会のご案内や活動のお知らせ、実績報告書などをお送りします。もちろん活動へもぜひご参加ください。



年会費:5,000円